

種もみクリーン原種供給センターの整備について (生産性革命に資する地方創生拠点整備交付金)

農産食品課

1. 事業の趣旨

本県産の水稻種子(種もみ)は、古くから培われた伝統と高い品質から、県内だけでなく、県外からも生産を委託されており、県間流通量の約6割を占めるまでになっている(H28は42都府県へ供給)。

主要農作物種子法の廃止以降も、引き続き本県が「全国一の種もみ出荷県」としての評価を確保するため、県農業研究所において、民間企業や他県が育成した水稻品種の種子(元種)を隔離栽培し、生育特性の把握やほ場での均一性の確認・向上を図るとともに、病害等のクリーニングを行い、翌年度には、クリーニングした種子(原原種)をさらに増殖し、原種として種子産地に供給する拠点施設を整備する。

2. 事業の内容 事業費:150,323千円(国補助率:1/2)

(1) 隔離ほ場(64,326千円)

外からの花粉の飛来を防止することで交雑を防ぎ、純粋な種子(原原種)を生産



(2) 病虫害検定温室・人工環境ほ場(30,103千円)

温室で種子の健全性を評価。また、人為的に降雨等の環境を作出し、効率的な防除対策を構築



(3) 種子低温貯蔵庫(14,915千円)

生産された種子を10℃、湿度30%で長期保管



(4) オープンラボ(20,992千円)

種子の調製や発芽試験を行うとともに、民間企業等に対して、種子の純度や病虫害の罹病性を検定するための技術を提供



(5) 種子調製用ミニプラント等(19,987千円)

3. 事業実施主体 県

4. 事業実施年度 平成30年度

5. 事業(工事)の経過

- H30年5月29日 ・設計業務入札
- H30年9月28日 ・工事請負業務入札
- H30年10月5日 ・工事着工
- H31年3月27日 ・竣工

「種もみクリーン原種供給センター」の概要

民間企業などで育成された品種

たねば
【種子場の課題】

- ① 民間・県外育成品種は、バラつきの程度が大きく、**抜き取り作業負担が増大**
- ② 県外からの細菌性病害の持ち込みのリスクが高く、**徹底的な防除対策が必要**

健全種子（原原種・原種）の生産

○ 原原種の生産（3品種/年）



隔離ほ場（新設）

- ※他からの花粉の飛来を防止
- ※風雨による病害（障害）の発生を防止
- ※1品種あたり元種 200g から原原種 20kg を生産

○ 原種の生産（3品種/年）

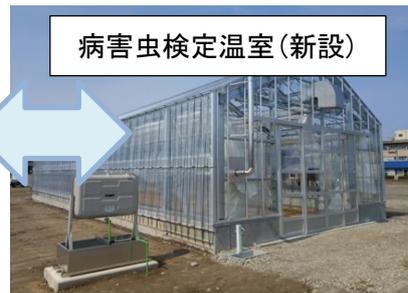


農業研究所ほ場（既設）

※1品種あたり原原種 6kg から原種 1t を生産

保菌防止対策及び効率的な防除体系の確立

○ 種子の保菌状態の高精度診断



病害虫検定温室（新設）



高精度診断装置

- ※県外・民間、隔離ほ場、採種ほ場で生産された種もみを播種、育苗して発病を検査
- ※あわせて、これらの種もみについて遺伝子レベルで病原菌の濃度を検出

○ 効率的な防除体系の確立試験

- ・人為的に降雨等の環境を作出し、各種病害の発病要因を解析し、効率的な防除対策を構築



人工環境ほ場（新設）

- ※裾から天蓋までビニル開閉式
- ※スプリンクラー設置

原種

※2019年より毎年3品種のクリーニングを進め、2021年より1品種あたり年間200kgの原種を種子場へ供給（計5年間）

富山県内の
5つの種子場

※2021年よりクリーニングした原種を使用した種子生産の開始

- 異茎株の抜き取り作業の軽減
 - 防除作業の軽減
- ⇒ 高品質で付加価値・合格率の高い種子の生産へ
(種籾生産農家の所得向上・経営規模の拡大が可能に)